

第1回 APWS 市民別説明会（福岡会場）議事内容・要旨

期 日：平成19年7月29日（日）11:30～16:00

場 所：博多パークホテル 2F 真珠

出席者：（APWS事務局）竹村、河村、竹中、近藤

JWF 評議員 神田

その他参加申込者

基調講演、サミット内容説明の後、意見交換、質疑に移った。

Q 「説明会のあり方について。どうしてこのように大きなサミットなのに、要求されなければ市民説明会を開かないのか？」

A 神田さんの申し出がなければ、やらなかっただろう。私たち事務局の力の問題。神田さんの申し出はありがたかった。

Q 日本語のHPと英語のHPが対応していない。日本語の情報が少ない。偏った議論となっている。

A フォーラムの場はWEB。その中で、議論していこうという主旨。アジア・太平洋地域の共通語が英語だが、それぞれの国では母国語でやってほしい。情報が少ないことは、幅をひろげるためにもWEBで言ってほしい。

Q サミットの3つのテーマについて。Aの水インフラと人材育成は誤訳なのでは？（水に関する投資）

A 直訳は、水の財政であり、水のインフラ投資のこと。それぞれの国の財政に応じた設備投資をしてほしいという意味。一般の市民のよりわかりやすいようにした。

Q サミットの意義とは？

A 途上国ではトップが財政や判断を握っているため、各国のトップが国際会議で表明することが大事だと思う。

Q 市民の意見の吸い上げがされていない。

A 世界水フォーラムは継続していくが、今回のサミットでは、国、企業、研究者のリーダーの限られた人数で議論してほしいと考える。市民にはWEBで議論していただき、サミットへインプットしてもらいたい。サミットでそれらは確認される。

Q 今回のサミットは限られたものだが、一般の人にも参加できる場を作ってはどうか？(WEBでは使用できない人が多いため。)」

A 多くの人に参加してほしいと考えているが、予算と時間の問題があり、その中で一番効果的と思われる議論の場を検討して水サミットとなった。サミット会場は警備上限られた人しか入れないが、オープンな参加の場として「オープンイベント」を開催してもらいたいと考える。オープンイベントの結果(A4、1枚程度)をサミットにインプットすることも考えている。また、本日の皆さんの意見も踏まえて検討したい。

Q 去年の大分の説明会については知らなかった。大分での認知度は低い。アジアの水の重要性について気づかせるのは誰なのか？WEBは有効な手段だが、開催国日本、九州、大分の市民が参加できる仕組みを考えてほしい。また、オープンイベントは議論のイベントはあまり多くない。大分の観光資源を有効に使い、開催してほしい。

A 全国からの応募があったが、大分県開催は客観的に審査し決定した。大分県での説明会は地元大分県のサミット実行委員会事務局が運営している。主催、県の意見を汲み取り、もう一度説明会を大分県でやることを検討する。我々は大分県の市民に参加してもらうことを期待しており、その方法を模索中である。

Q 山の現状を訴えたいと考えている。会議まではできないが、NPOが情報を掲示できる小さなブースを是非作ってほしい。」

A 大分県の実行委員会がピーコンの中にNPOブースをつくることが決定している。大分県の実行委員会に確認してみる。

Q 日本の森、水の状況と、アジアの状況は大きな開きがある。アジアの中では、日本がもっとも進んでいる。そうするとアジアに対して、日本から発信をすることを期待されるが、どのような発信をするつもりなのか。

A 日本の森林にも問題があるが、歴史的にも偉大な大分県でサミットを開催することで、アジアに知っていただきたい。

Q 昨年の実行委員会の説明会ではよくわからなかったため、今回も参加した。サミットは首脳のみ参加ということで、オープンイベントに応募したことは意味があったかどうかわからなかった。大分県からは、NPO ブースについて連絡があり、応募したが、それから連絡がない。実行委員会からの情報が下に下りてきていないということが懸念されている。大分県の実行委員会では、どんな情報発信をしていく必要があるのか、再度話し合う必要がある。

A サミット自体は限られた空間と時間の中で行われるもので、オープンイベントで出された意見をどうサミットへインプットしていくかを検討する。本日のことは大分県内でも検討する必要があると思われ、その旨は大分県に連絡しておく。12月の説明会では、まだ何も決まっていなかったなので、再度大分県で説明会を開催することを検討する。

Q 市民参加をする方法を見つける人は大分県にいる。国レベルだけでなく大分県レベルでやりたい。

A 大分県の実行委員会はやろうとしている。本日の意見は大分県に伝える。

Q 今回の説明会の応募はNPOなどの組織だけで、私のような個人としてできなかったの、苦勞した。私は家庭からの廃水について考えている。大分県にまかせているといっているが、大分県は動いていない。本当に自分たちがやりたいと考えたら、大分県は今日も自分たちでやるはずだ。APUの学生は議論しているが、日本の学生は考えが薄い。子ども達が水について考える場を作ってほしい。昨日別府市のピーコンで環境展を開催したが、参加が少ない。また、大分県の担当の方は誰か？

A その言葉を伝える。大分県の担当は草野さん。

Q ユースサミットを開催しようとしている。昨年鹿児島島の洪水被害の救援活動をした。組織ではなく、情報の仕組み、ネットワークを作ろうと考えている。自分たちができる災害管理を整理したい。多くの大学生と話し合いたいとかんがえているが、話し合ったことを、首脳にインプットしてほしい。第4回世界水フォーラムでは、子どもの代表が発表する機会があった。若い人達が自らやろうとしていることが評価されている。何らかの形で、世代間セッションができる場をつくってほしい。

A 了解した。検討する。できれば今日の意見もWEBに入れてほしい。

Q サミットはメキシコの世界水フォーラムで決まったとあるが、イニシアティブはどの国

が？

A 第4回世界水フォーラム（メキシコ）のためのアジア・太平洋地域の準備会合を日本でやった際に意見が出た。メキシコでもアジア・太平洋地域の会議があり、そこで宣言された。

Q メキシコは大変閉鎖的だった。そこで決まったフォーラムを民主的にするためにはどうするのか、考えてほしい。市民の意見を伝えるためのオープンイベントであるなら、説明会を頻繁に開くべき。また運営費は？

A 説明会はその通り。サミットは短く、たった2日のタイトなスケジュールなので、オープンイベントを考えた。予算はJWFとADBによるが、まだ参加者が決定しないため、明確な予算は出ないが（大分県は別）今積み上げ中である。また、寄附をお願いしている。

Q サミット開催の運営費を再度聞く。ざっくりでよい。100万円か、1億円か、10億円か？

A 大体1億円である。

Q 参加者について条件とは？

A 運営委員会で決定する。各国の参加者へは招待状の提出は済ませた。

Q サミットが、ADB等やっているインフラの正当性を後押しすることになるのではないか？

A 限られた時間で限られた人々でやることなので、詳細については検討中である。

Q ブログが書きにくい。意見を見てもらえないという懸念がある。どんな意見がでていくのかわかる仕組みをつくってほしい。

A これは私たちJWFの問題と思われる。項目別で見られるようにする等、WEBの方法は検討する。

Q スポンサー制度について、もし自分が1000万円寄附すれば、サミットで意見を言える場を与えられるのか？

A その通り。もし 1000 万円出してもらえたら、意見を言えるが、スポンサーとなる企業の選別をしている。信用ある企業から寄附をもらうのは、現在 NPO が会議を開催するシステムとなっている。

Q 参加の権利を与えるべきではないと考える。次回の説明会では、テーマごとの市民との会話をやってほしい。

A もし 1000 万円の寄附でサミットに参加して、会社の PR をしたら、各国、各参加者から非難されるのは間違いない。また、各テーマについては ADB に伝える。

Q 市民の声を反映させる方法を考えてほしい。

A 本日答えられないのが残念だが、必ず検討する。

以上